

芸術

| | | | | | |
|-------|--------------|-----|------|-----------|-------------|
| 科 目 | 書道 I | 単位数 | 2 単位 | 学科・学年・コース | 全学科 2 年生 選択 |
| 使用教科書 | 教育図書 新編 書道 I | | | | |
| 副教材等 | | | | | |

1 学習目標

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校国語科書写の学習を基礎としながら、書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛する心情を育てる。 ・書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、自己を主体的に表現するための書道の基礎的な能力を伸ばしていく。 ・書的美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばしていくとともに、書の伝統と文化についての理解を深める。 |
|--|

2 指導の重点

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 硬筆と毛筆の使用上の関連性を理解させ、用筆法の基礎を固める。 ② 毛筆学習の成果を日常的に生かし、更に好きな言葉を用具、書体、線質、構成などを工夫して書くことに興味を持つようにする。 |
|--|

3 指導計画

| 学期 | 学習内容 (単元名) [時数] | 学習のねらい |
|--------------|---|---|
| 1 学期 [26] | ①書へのいざない □書道の世界 [2] 1. 書道の世界 2. 姿勢・執筆法を身につける 3. 用具・用材を知る 4. 調和よく書いてみよう 5. 表現の幅を広げよう | 中学校までの書写の学習を振り返る。 書写と書道の共通性と相違を理解し、書の世界を知る。 姿勢や執筆法の基本を理解する。 用具・用材の種類や性能を学ぶ、製造工程や産地を知る。 漢字と仮名の調和と用筆の基本について理解する。 用筆や運筆、用具・用材による表現の違いを学ぶ。 |
| | ②漢字の書の学習 □漢字の書 1. 古典に学ぶ [2] 2. 楷書の古典に学ぶ [20] ◇唐の四大家 (書と人) [2] | 漢字の書体の変遷について学ぶ。 古典の意義や拓本について学ぶ。 楷書古典の臨書学習により、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。 |
| 2 学期 [30] | ①行書の古典に学ぶ [16] ◇書聖 王羲之 (書と人) ◇三筆・三跡 (書と人) | 行書古典の臨書学習により、行書の特徴を踏まえ用筆法・運筆法を学ぶ。 各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。 |
| | ②草書 [2] | 草書の成立過程、特徴、書者の情趣の出しやすさの芸術としての書への多様性を学ぶ。 |
| | ③隷書 [4] | 隷書に親しみ、運筆のリズムを楽しむ。 |
| | ④篆書 [2] | 篆書に親しみ、運筆のリズムを楽しむ。 |
| | ⑤篆刻 [6] | 姓名印を刻し、創作作品に押印する。 |
| 3 学期 [14] | 仮名の書 [7] | 仮名は漢字を母体とした日本独自の文字であることを理科し、自国の文化に対する関心を高める。 仮名の線質、用筆法を理解し、線美に対する感性を身につける。 |
| | 漢字仮名交じりの書 [7] | 漢字の書の学習から随時漢字仮名交じり書を学習するがここでは特に創作自運に重点を置き、書表現への興味を高める。 |

4 評価の観点・方法

評価は、次の4つの観点から行います。

| | |
|-------------|---|
| 書への関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none">・漢字仮名交じり・漢字の書・仮名の書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。・日常生活の書の効用や書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを感じ取り、主体的に鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 |
| 書表現の構想と工夫 | <ul style="list-style-type: none">・漢字仮名交じり・漢字の書・仮名の書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 |
| 創造的な書表現の技能 | <ul style="list-style-type: none">・創造的な書表現をする為に、漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書の基礎的な能力を活かし、効率的な表現の技能を身に付け表している。 |
| 鑑賞の能力 | <ul style="list-style-type: none">・日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。 |

5 担当者からの一言

書は見る、聞く、書くの三点が大切。生の作品をできるだけ展示するので先ず目の学習を大切に。用筆の基本として、筆を立てること。長い筆は息を深く吸い込むなどを覚えること。